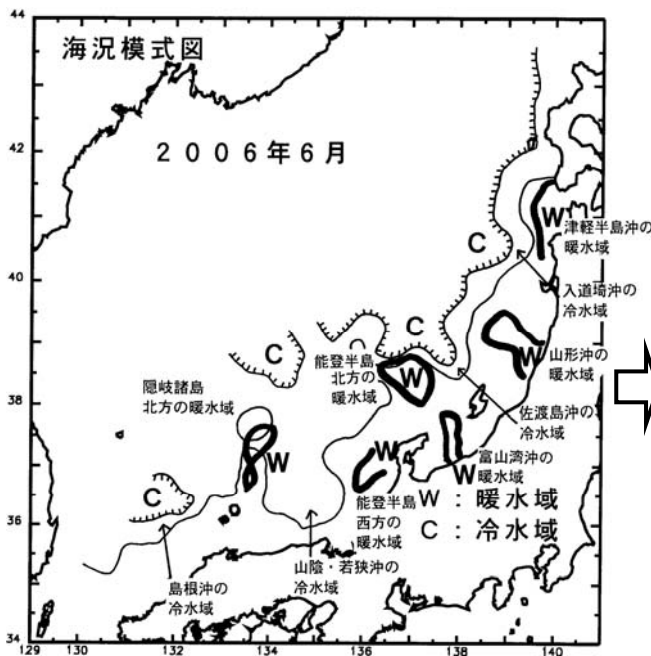


平成 18 年度第 2 回日本海海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し (2006年7月~9月)

対馬暖流域の表面水温は、“平年並み” ($\pm 0.5^{\circ}\text{C}$ 程度) で経過する
対馬暖流域の 50m 深水温は、西部及び北部とも“平年並み” ($\pm 0.5^{\circ}\text{C}$ 程度)
で経過する



2006年7月~9月の海況

- 隠岐諸島北方の暖水域は、やや南下する
- 能登半島西方の暖水域は、能登半島北方の暖水域と一つにまとまって停滞する
- 山形沖の暖水域は、北東に移動する
- 富山湾沖及び津軽半島沖の暖水域は、消滅する
- 島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや強い
- 佐渡島沖の冷水域の張り出しは、平年並み
- 入道崎沖の冷水域の張り出しは、やや弱い

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、笠原、田中（博）、佐藤
〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-1
電話：03-3502-8111（内線 7375、7376）、直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759
電子メール：yuusuke_sato@nm.maff.go.jp
独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部
〒951-8121 新潟市水道町 1 丁目 5939-22
電話：025-228-0451(0616)、ファックス：025-224-0950、電子メール：fra-jki@ml.affrc.go.jp

なお、本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査推進委託事業のホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び日本海区水産研究所のホームページ (<http://www.jsnf.affrc.go.jp>) に掲載されます。

参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
青森県水産総合研究センター	兵庫県但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県水産試験場	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所

平成18年度第2回日本海海況予報

1. 今後の見通し(2006年7月～9月)

- (1) 隠岐諸島北方の暖水域は、やや南下する。能登半島西方の暖水域は、能登半島北方の暖水域と一つにまとまって停滞する。山形沖の暖水域は、北東に移動する。富山湾沖及び津軽半島沖の暖水域は、消滅する。
- (2) 島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや強い。佐渡島沖の冷水域の張り出しは平年並み。入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱い。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”で経過する。

2. 経過(2006年3月～5月)

- (1) 3月に大和堆沖及び隠岐諸島北方でみられた暖水域は、南へ移動。
3月に能登半島沖でみられた暖水域は、東へ移動。
3月に佐渡島沖及び男鹿半島沖でみられた暖水域は、消滅。
3・4月に隠岐海峡～丹後半島沖でみられた暖水域は、東へ移動。
4月に能登半島西方でみられた暖水域は、北東へ移動。
4月に佐渡島沖でみられた暖水域は、北東へ移動。
- (2) 島根沖、佐渡島沖及び入道埼沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、大きくて接岸(3月)。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
3月：“平年並み”～“やや低め”で、隠岐諸島北方では“かなり低め”の海域が分布。
4月：ほぼ全域で“平年並み”～“やや低め”。
5月：佐渡島沖及び但馬沖で“平年並み”～“やや高め”となる以外は、“やや低め”～“かなり低め”となり、“はなはだ低め”の海域も広範囲に分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”(1～3月平均)。

3. 現況(2006年6月)

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北方、能登半島北方、能登半島西方、富山湾沖、山形沖及び津軽半島沖に分布。
- (2) 島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域は、大きくて接岸。佐渡島沖の冷水域は、規模が平年並みで接岸。入道埼沖の冷水域は、小さくて接岸状況は平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、ほぼ全域で“平年並み”～“やや低め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”(4～6月平均)。

(注) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

“はなはだ高め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ

“かなり高め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ

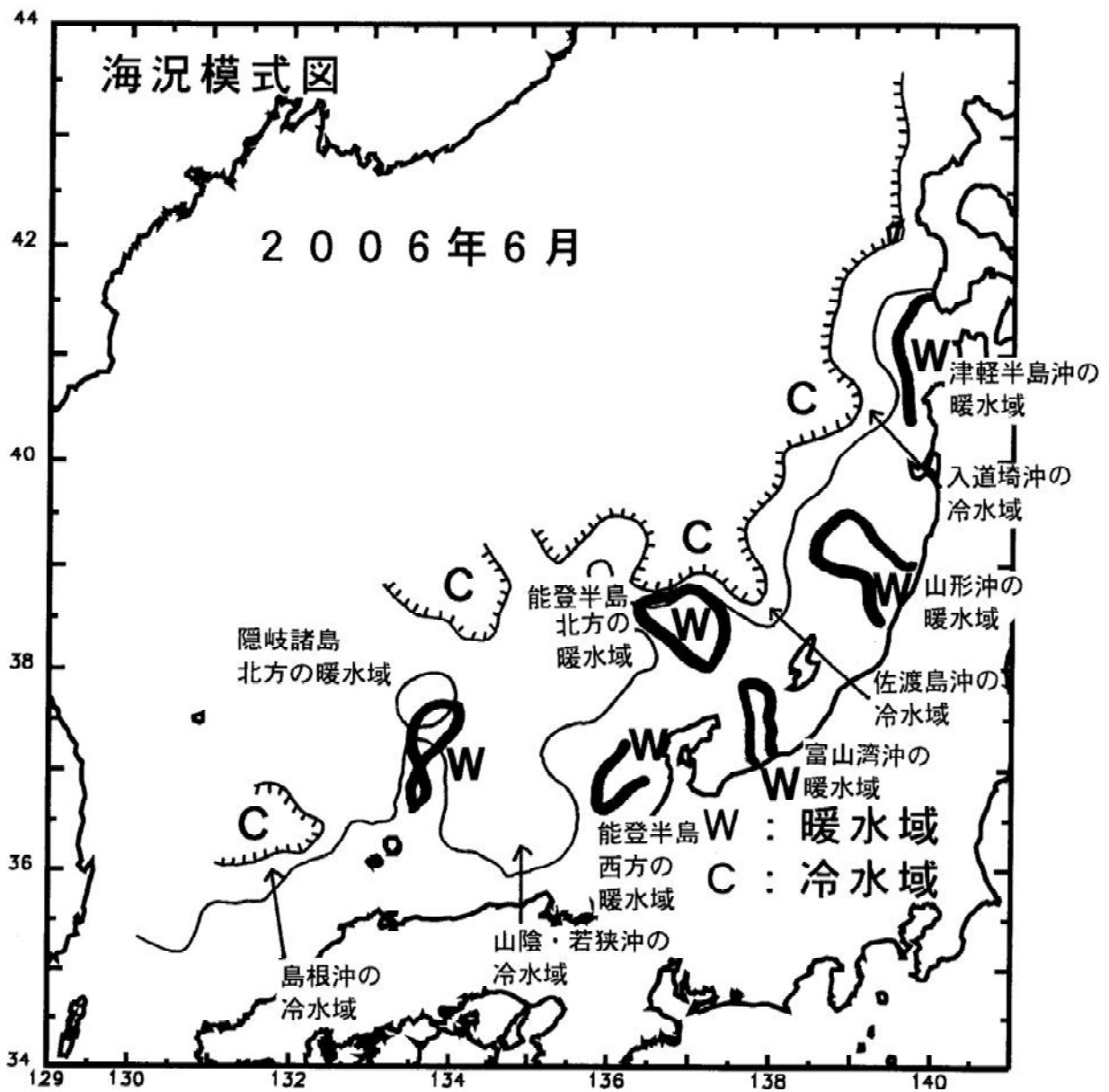
“やや高め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ

“平年並み”：約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

“やや低め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ

“かなり低め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ

“はなはだ低め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2006年6月の海況模式図